



### 現在の仕事内容を教えてください！

弁護士として、金銭貸借トラブルの予防と解決や不動産(土地、建物、マンション)の売買貸借や交通事故、遺言遺産分割などの相続問題そして刑事事件といった各種法律業務、法人税、所得税、消費税等の申告や相続税の計算、申告といった税務業務から残業代請求まで幅広く案件を取り扱っています。

中でも比較的多いのが交通事故の被害者側の代理人として保険会社と賠償額の交渉や民事裁判を進めるといった案件ですね。また顧問先の案件も多く、例えばスーパーマーケットを営む会社では、新店舗をオープンする際に不動産の賃貸借契約のチェック等あらゆる法的問題が発生しないのかを検討します。さらに夫のDVにより離婚を考えられている方など家庭の問題、お子様が傷害事件を起こしてしまったというような少年事件、覚せい剤を密輸した外国人の弁護といった刑事事件など案件は非常に多岐に渡ります。

### 何故弁護士になろうと思ったのですか？

もともと中学生くらいの頃から弁護士に対し漠然とした憧れがありました。と言うのもポール・ニューマン主演の「評決(The Verdict)」のような、弁護士が主役の映画を見たり小説を読んだりするうちに、自分の経験や知識、勘をフル動員して悪や大企業に立ち向かう姿が単純にカッコ良く思えたのです。大学生になり、就職活動をする時期に自分

が何をやりたいのかやりたくないのか自問をしました。これはもちろん私個人の意見ですが、自分が関わって作っていないものを胸を張ってお客様に売れるだろうかという疑問が常につきまとったのです。そう考えるともちろん利益は度外視出来ないのですが、できる限り利益を考えずに純粹にお客様の役に立っている仕事は弁護士しかないのではな

### いかと考えたのですか？

又家族の影響も大きかったです。私の父は会計事務所を営んでおり、母は教師、兄は公認会計士でいわゆる会社勤めをしている者がいませんでした。ですから私としても会社勤めをしている自分あまり想定していませんでしたし想定出来なかつたのです。とはいえ順調に司法試験に合格したわけではなく、合格した時には既に30歳になっていました。順調にパスしたとは到底いえません。特にロースクールに入学するまでは、常に「このまま合格できないのではないか」という不安との戦いでした。「自分のやりたい職業を目指さない」と経済面でずっと支え続けてくれた両親にはとても感謝しています。また私はロースクール入学と同時に結婚したのですが、「後悔したまま人生を過ごして欲しくない」と精神的に支えてくれた妻の存在も非常に大きかったですね。

### 現在の仕事での自慢話(最も成果が出たりした話)を教えてください

これは非常に難しいですね。と言いますのも私たちの仕事は完全な勝利というものがないか存在しませんから。取返して一つ挙げるとすれば刑事事件で無罪を得たことでしょうか。詳しくは話せないのですが大型トラックを盗んで外国へ売ったという容疑の事件でした。ご存知かもしれませんが日本の刑事事件は100件中99件以上は有罪、即ち有罪率は99%を超えているのです。捜査機関は巨大な組織ですからそれに立ち向かって無罪を得ることは非常に難しいことなのです。ですから判決を聞いたときは目の前で起こった事実と思わず震えてしまい、ま

した。この事件で無罪を勝ち取ることが出来たのは一つのポイントでした。この件では、膨大な資料を何度も読み込み、有罪であれば存在すべき証拠が抜けていることに気づいたので。すなわち有罪を立証するのに必要な証拠が足りなかったのです。相手方(検察官)の立場に立って資料を徹底的に検討し直したことがポイントだったと思います。この事件はもともと他の弁護士が担当していた案件でした。被疑者がその弁護士との相性が悪かったらしく喧嘩してしまい、私が国選弁護士として引き継いだ案件でした。「先生が弁護してくれたおかげ」ととても感謝していただいたのですが未だに忘れられることのない経験です。

### 現在の仕事での失敗談を教えてください！

初めて担当した裁判員裁判のことです。被害者の胸部や腹部を包丁で数回刺したという殺人未遂の案件でした。依頼者は「殺すつもりはなかった」と殺人の故意を否定しました。私は何度も依頼者と面談をし「この人は、人殺しができるような人ではない」と確信していました。

しかし結論として裁判員は殺人の故意を認めました。私が負けたのです。敗因はたくさんありますが、その一つは、裁判員を説得する技術や準備が十分でなかったことです。裁判員裁判における言葉の選び方や表現方法を深く意識して研究していませんでした。私の未熟さが招いたものです。弁護士の仕事は誇張ではなく依頼者の人生を左右するものでもあることを再認識させられました。それ以来余裕をもって準備することの大切さを意識し、仕事の進め方を変えるきっかけになりました。

### 他の弁護士さんとの違いは何ですか？

お客様からはよく「弁護士らしくない」と言われます。それが一番の違いなのかもしれませんね。一般的に弁護士は相談しにくいと思われているようですが、私は割と気さくな方なので、その点が弁護

士らしくないと思われるのかもしれませんが、依頼者に対して気を付けているのは、出来るだけ分かりやすく説明をすることです。弁護士の中には、取返して難しい法律用語を使う方もいますが、私ことにより、法律に詳しくない方にも理解できるように心がけています。案件終了後に依頼者の方から感謝の言葉をいただいた時とか、しつかり準備をしていたことが尋問で功を奏した時なんかには、弁護士の仕事の醍醐味を感じたり、頑張った瞬間になつて良かったと実感しますね。

私の息子はまだ小学生ですが、まだ私の仕事の細かい部分は分かっていないのですが、もし私と同じ仕事をしたと言ってきたら、弁護士の仕事の素晴らしさの話を話そうと思っています。

実際に弁護士になって、想像していた弁護士との違いは、経営者としてのウェイトが意外と大きいことです。修習時代の民事弁護教官であり、東京で働いていた頃の上司でもある近藤早利先生から「恒産なくして恒心なし」との言葉をいただきました。利益を追求することと利益を度外視してでべきことが出来る点が弁護士の素晴らしさだと思います。ただ利益を度外視してでもすべきことと、バランスを保つのが非常に難しいと感じています。ただ利益を度外視してでもすべきことが出来る点が弁護士の素晴らしさだと思います。リタイアする時に、「生まれ変わっても弁護士になりたい」と思うように日々頑張っていきたいと思っています。

